

フロン規制の物語から広げる



三年一組さんと正四郎先生の国語授業を参観しました。国語・論説「フロン規制の物語」は、グローバルな環境問題を「自分ごと」として読み解く科学論です。

「夢の化学物質」としてもてはやされたフロンは、地球のオゾン層を破壊する危険性があることが分かり、製造や使用を規制すべきとする議論と既に多くのフロンが使用されていてグリーンであり、規制すべきでないとする議論が対立し、議論の末に「モントリオール議定書」によって、一部のフロンの製造や使用が制限されるまでの物語です。

互見授業旬間



羽地中学校
学校だより 89号
せいのりゅうおおかわ
H30. 9.18



授業は、取り上げた事例をもとに論点を整理していく課題。フロンは、私たちの生活に様々な便利さを提供しています。例えば、車や建物のエアコン、冷蔵庫、化粧品などのスプレー缶、発泡スチロールなどです。しかも無害に近く、安いので「夢の化学物質」と呼ばれていました。しかし、太陽からの有害な紫外線を遮断している「オゾン層」を破壊してしまうとの理由から、近年は「代替フロン」が開発され使用されました。しかし、この「代替フロン」も地球温暖化の原因になることが明らかになり、「代替フロンの代替」の開発が急がれていると語っています。



教科書を何度も読んでいくと、なんとなく分かったからより深く分かったに変化していきます。

「わかりやすさ」と「説得力」を工夫して、中学生にも分かるように書き下ろされた論説です。

作者は、今生きている中学生や未来の人達に提言します。「正確無比といわれる科学の価値も社会の変化や関係性において修正・補完されるもの」として様々な立場からものを考えたり、対話・議論したり、将来を見通す視点をもってほしい。

ことばを通じて出会う世界。そこへの入り口が開ざれている人は自分の体験だけの世界や人生です。その入り口が開いているもの。「見えないもの」「出会えないもの」「遠くのもの」「過去のもの」「未来のもの」を体験することができず、そのトンネルをくぐるのが勉強です。少しでも面白いと思うものを読んでみる。一度、「トンネルを抜ける」経験をするときやみつきになるはずです。

トンネルの先にあるものをたくさん見つけてほしいと願います。』と語っています。

線り返し読んで批判的に分析したり、身近な生活や地域でのグリーンゾーンについての課題を出し合って、多角的に考えていくことも「学んだこと」で何が出来るようになるか、を確かめられる課題なので、今後の展開が楽しみです。



真喜屋小第123回運動会



真喜屋小学校の伝統ある運動会が8日(土)にありました。障害物リレーや校歌ゆづり、玉入れなどの楽しい競技が展開する中、中学生も参加しての綱引きも大いに盛り上がりました。天気にも恵まれ、楽しい運動会となりました。

